

緊急水源としての地下水活用事例調査（七尾市）

- 能登半島地震発災直後より、井戸（地下水）を代替水源として活用した七尾市を対象に、有識者が3月2日（土）に地下水活用状況調査を実施。
- 七尾市は、かつて過剰揚水により地盤沈下が発生したため地下水採取を規制しているが、断水が長期間に及ぶ中、市民や事業者が主体的に所有井戸を開放。
- 今次災害における代替水源活用状況や課題を把握し、地域の防災力向上に資する情報を発信予定。



■調査実施日 令和6年3月2日（土）

■調査メンバー

- ・大阪公立大学現代システム科学域教授 遠藤崇浩
- ・東京大学大学院工学系研究科教授 沖大幹
- ・芝浦工業大学工学部教授 平林由希子
- ・芝浦工業大学工学部特命助教 井出浄
- ・応用地質株式会社取締役副社長 五十嵐崇博
- ・埼玉県環境科学国際センター専門研究員 柿本貴志
- ・埼玉県環境科学国際センター技師 高沢麻里
- ・株式会社建設技術研究所東京本社上下水道部副参事 蛇原雅之
- ・城西大学現代政策学部准教授 飯塚智規
- ・株式会社地圏環境テクノロジー専務取締役 多田和広
- ・公益財団法人リバーフロント研究所業務執行役 内藤正彦
- ・国土交通省水資源部 中込淳、森一史 他 計15名

■現地調査結果

□井戸の利用状況

- ・民家や事業所の多くの井戸が開放され、地域で活用
- ・水質に応じて井戸を使い分けて利用（飲用、洗濯、食器洗い、トイレ等）
- ・特に給水車からの持ち運びが困難な高齢者等にとって、近所の井戸活用は有効的
- ・水道復旧後も、既存井戸を残すケースが増えるのではとの声もあり

□井戸利用上の課題、留意点

- ・夜間に取水する際の騒音で一部苦情あり
- ・井戸の脇で衣類の洗濯をする等のマナーの問題も散見
- ・かつて地盤沈下を生じた地区のため再発を懸念する声もあり
- ・飲用可否が不明の井戸は自己責任で利用

主な調査箇所

①	旧工場の井戸を生活用水に利用
②	民家内の井戸の横に洗濯機を設置して地域に開放
③	民家内の井戸を開放し、生活用水に利用
④	民家内の井戸を開放し、避難所のトイレにも利用
⑤	町内会が、「飲み水」、「トイレ水」の用途に応じて利用できる井戸について表示
⑥	地元の学校が新たな防災井戸を掘削・整備

